

1. 研究課題名：戸外活動時間を考慮に入れた、土壌性ダスト（黄砂）による呼吸器/アレルギー疾患リスクの定量的評価

2. 研究代表者氏名及び所属：
中山健夫
（京都大学大学院医学研究科）



3. 研究実施期間：平成 23～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

喘息等のアレルギー疾患に苦しむ小児が増えている。砂漠化に伴い黄砂が日本で観測される頻度も 1980 年代後半から増えている。黄砂の飛来は小児喘息入院の危険因子となることが示されているが、既存の喘息を短期的に悪化させるだけでなく、喘息の発症にも関与し長期的な影響を及ぼしていることも疑われる。

妊娠期/生後初期の黄砂のアレルギー病態への短期的/長期的影響を明らかにする。さらに黄砂によって症状を起こしやすい体質や条件を明らかにし、子供たちの無用な苦しみを低減、疾患に伴う経済的損失も低減させる。黄砂に付着した大気汚染物質の関与も調査する。

砂漠化防止及び大気汚染削減のための行政的対応への科学的根拠を提供できる。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 生後初期の黄砂曝露と喘鳴／喘息発症リスク（京都大学）
- ② 妊婦における、土壌性ダスト（黄砂）の呼吸器アレルギー症状発現への影響（富山大学）
- ③ 妊婦における、土壌性ダスト（黄砂）の高感受性群の検索（富山大学）
- ④ 土壌性ダスト（黄砂）の影響の地域差（鳥取大学）

6. 研究のイメージ

